

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500887		
法人名	医療法人 社団 田口会		
事業所名	グループホーム コアラ		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=1070500887-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年2月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①全職員が正職員。職員の半分数が事業所、10年以上勤務。
②医療機関と協働している。訪問看護師が週に1回訪問、緊急時24時間対応している。また希望者には往診、居宅診療管理指導を利用出来る準備がある。
③ブログを活用し面会が出来ない時も利用者の様子等を発信し家族に安心して頂ける様に努めている。
④近隣に病院や消防署、お店があり安心して生活できる環境にある。
⑤毎食、職員が手作りの料理を提供している。また新鮮な食材が毎日、届く。
⑥毎月、様々な災害を想定し自主避難訓練を行っている。備蓄品、自家発電(3台)の準備がありセコム、防犯カメラ(4台)の設置がある。
⑦ジェットパーフェクター(無害)を毎日稼働し空気の清浄を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が若い新人職員を育てる教育方法を習得し、勤続年数が10年以上の職員と共に、世代間の違いを考慮し力を合わせ、また、補い合いながらバランスよくケアに取り組んでいる様子がうかがえた。長く勤務できることは職員にとって働きやすい労働環境が整っているということであり、利用者にとっても馴染みの職員との生活は安心に繋がる。現在、コロナ禍にあり自粛生活が続き、これまでにない束縛や窮屈さがある中で、事業所は少しでも心地良い環境を用意するためヒーター設備や日よけテントの設置等の努力をし、職員に対しても必要な物には理解を示し、福利厚生にも力を入れている。訪問時に利用者が「ご苦勞様です。」と声をかけてくださった。訪問者を快く受け入れる様子から、外部に対して開放されている事業所といった印象を受けた。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の方針をふまえながら職員の意見も取り入れ年間・月間、目標を掲げている。目標達成を目指し日々、実践につなげている。	法人の理念の他、職員が事業所独自の年間目標(前期、後期)、月間目標を決めている。経験や資格がある職員が多く、若い職員に対しては世代間の違いを考慮した指導に努め実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流はしていない。	区長、民生委員に4ヶ月に1回は利用者の様子を知らせている。事業所がある地域は店舗も増えてきているので気をつけながら、地域にも見守ってもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログを通じて事業所の取り組み、利用者の様子等を家族やたくさんの人々に知って頂くきっかけになっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面開催は中止としている。 書面にて開催し家族には議事録をお配りしている。 また区長、民生員、地域代表の方々には事業所の様子を電話にて報告している。	隔月で書面開催とし、家族、区長、民生委員、地域代表者、市へ行事やイベントの報告、利用者の様子をまとめた議事録を電話等で伝え、それに対しての意見や情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて主に電話にて相談させて頂いている。また介護保険更新や手続きは家族にお知らせしている。	コロナワクチン接種についてケアマネジャーと家族が連絡を取り合い、管理者がまとめた情報をケアマネジャーが市へ報告をする等、市と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一回身体拘束委員会を開催、また勉強会でも取り上げ学び知識を深めている。 玄関や窓は施錠せずにセンサー音や職員同士の声かけ、見守りにて対応しているが安全が図れない時や太田市や警察署から発信されるメール内容によって施錠をする事もある。その旨、家族には同意して頂いている。	利用者の状態や事業所を取り巻く状況によって、玄関の鍵の開閉を調整している。スピーチロックについては、声の大きさの認知症状への影響を考慮している。3ヶ月に1回委員会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの終息が見えない中、閉鎖的にならない様に努めている。 また事業所の近くを散歩、外に出て外気浴等、ブログを発信することによりたくさんの人々の目に触れる機会も増やし虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用が有り、活用支援を行った。今後もスムーズに支援出来るように知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は、家族と話し合いの場を持ち、家族の不安や疑問・要望を伺っている。契約書に基づき、説明・提案等を伝え家族には理解と承諾して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回満足度アンケート実施している。アンケート結果は代表者、管理者、職員は内容把握している。全家族にも結果内容をお配りし、要望等が出た際には改善出来るよう努めている。また事業所、玄関付近にも結果内容を掲示している。	県の指導に沿ってガラス越しや距離を取り、制限をしながら面会を実施し、家族の要望に応えている。また、満足度アンケートの結果を運営の参考にしたり、利用者からは要望を直接聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員間でコミュニケーションを図り運営に反映している。今年度も外出する事が難しかったため利用者が楽しめるよう、季節を感じて頂けるようにと外にテントを設けまた利用者が入浴中寒くならない様にと浴室に温風ヒーターを設置した。	毎月議長を決めて、利用者の暮らし方がより良くなる為の意見や提案をまとめている。管理者は、職員との距離感や職員間のチームワークが良好であることを運営やケアの実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは連絡を取り合い事業所の現状を報告している。また訪問看護、住診来所時やイベント時には、職員人数を手厚して、職員の負担を軽減している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、新人職員が入職した事によりもう一度、職員一人一人、ケアの見直し現状を把握する事が出来た。また今年度も事業所内の研修を中心とし報告書を作成し回覧する事により職員の思いを知る事が出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、グループホーム大会に参加し短時間では有るが同業者と交流することが出来た。同業者の活動を学び新しい発見があった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の本人、家族との面会時に不安な事、要望等を伺い、記録し把握している。入居前に事業所見学を勧め入居後も不安なく利用できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に要望などを傾聴する事はもちろん、ケアマネが見学から入居まで家族と何度も連絡を密にし、家族の潜在的ニーズや要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院や居宅のケアマネから本人と家族の情報を集め、当施設でいいのかを代表、管理者、ケアマネと相談しながら行っている。ニーズが合致した際には医療機関を導入できるサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子、表情を読み取り、いつでも職員に声をかけて頂ける距離、関わりを持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため家族とゆっくり過ごせる時間を提供する事は出来なかった。ガラス越しの短時間面会行った。ケアプランの中にも家族の役割を入れ本人を支えるネットワークづくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には本人の好きな物、思い出のある物を持参して下さる様お伝えしている。また本来ならば家族以外の方にも面会にいらして頂きたい所だが今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせて頂いた。	枕やマットレス、化粧ボックス等、自宅で使用していた物や家族写真を持ち込み、趣味、新聞を読む習慣の継続等、これまでの生活環境を変えない支援をしている。家族との面会実施にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない様、様子を見ながら席の移動や声かけを行っている。利用者間のコミュニケーションでは、トラブルになる事もあるのでその都度、職員が仲裁している。また毎日、利用者一人ひとりが出来る事を見つけ家事等の役割を行って頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されてもいつでも遠慮なく声をかけて下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から利用者の情報収集を行い生活環境の希望、相談を伺いより良い生活が出来るように支援している。	利用者からは日常的な会話を通して思いや意向を把握し、コロナ禍にある現在は、家族に利用者の様子を伝える際に、また短時間ではあるが面会時に思いや意向を聞けるような対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの生活習慣、暮らしを伺い出来る限り利用者がこれまでと変わらず安心して生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子、状態変化をこまめに申し送りし介護記録にも記載している。統一したケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子、状態を記録しその人その人の計画を作成している。月1回モニタリングを行い、記録を追いながら情報を共有して計画を作成し支援している。	介護計画は毎月、議長を決めたカンファレンスでケアマネジャーが職員からの意見を集約し、モニタリングをしている。更新時、また3ヶ月毎に見直しをし、6ヶ月毎にサービス担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化、日々変わっていく状態等を記録している。職員は月1回全利用者の個別案を提出し改善点等を探し実践に生かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの体調変化に対応出来るよう医療機関(往診、訪問看護、薬剤師)と連携を取り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関(往診、訪問看護、薬剤師)と協働し、安心安全に暮らして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を希望している家族には受診時に事業所の様子や状態報告書、薬剤師からの内服情報報告書も合わせてかかりつけ医にお渡しスムーズに受診出来るように心掛けている。	入居時に協力医について説明しているが、1名は引き続きかかりつけ医に2ヶ月に1回受診し、他の利用者は月2回診療所の医師の往診を受けている。歯科は必要に応じて依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師が来所時に利用者の状態や受診した時の情報を伝えている。 また体調変化、緊急時が診られた時は、連絡し指示を仰いでいる。24時間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを記入し情報を提供している。 新型コロナウイルス感染拡大防止ため面会は出来ない状況だったため病院に連絡し関係者に状態を伺い情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入られた時より、家族、医療機関(往診)と話し合い、家族からの希望を伺っている。 医療機関(往診、訪問看護、薬剤師)と情報交換を行い支援に取り組んでいる。今後について、家族と再度話し合いを設ける予定。	重度化に向けた指針がある。アンケート結果により全員が看取りを希望していることから、職員の勤務体制を考慮しながら、協力医、訪問看護師と共に看取り支援に取り組むことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に対応した職員と情報を共有し、会議の勉強会の題材としている。 また、ひやりはっとを作成し事故防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な災害を想定した自主避難訓練を行い、発電機等の設備を職員全員が使用できる様にしている。 今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため消防署職員の立ち合いが出来なかった。年2回の避難訓練は昼間、夜間想定し利用者、職員のみで行った。再度、火災通報装置、消火器の使い方を確認した。	コロナ禍にあり、年2回の消防署立会いのない避難訓練と毎月、自主訓練を実施している。ハザードマップによる該当地域ではないが、災害時避難計画を作成している。3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室に入る際やトイレの時等ノックや声かけし入ることを徹底している。また利用者一人ひとりに合った声掛けを行っている。	居室やトイレに入る際は必ず声をかけている。同じ言葉でも声の大きさによって利用者の受取り方が違うので注意している。できることはしてもらい、利用者の持つ力を尊重した取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝、起床時間等、利用者一人ひとりに伺い対応している。また入浴や朝の洋服選び等できる方にはご自分で選んで頂いている。また10時、15時のティータイムでは利用者の飲みたい物を一人ひとりに伺い提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日、利用者の体調、気分に合わせて過ごして頂いている。また入浴の有無は利用者ご本人にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服やパジャマなど選べる利用者にはご自分で選んで頂いている。また選ぶのが難しい利用者には衣類を見て頂きその中から選んで頂いている。また入浴後、就寝前、利用者希望時には保湿クリームを塗布し肌トラブルを予防している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を探し食事の盛り付け、食器を拭き、おしぼり準備等手伝って頂いている。またお菓子レク等は利用者も参加し楽しみながら行う事が出来た。	食事は法人の栄養士が献立を作り、届いた食材で職員が手作りしている。敬老会、誕生日会には特別な御膳を用意し、胸にリボンを付ける演出等の工夫をして、食事を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせ食事の形態を変えて提供している。摂取量、水分量もわかりやすく記録している。また利用者の食事ペースに合わせ時間を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の利用者は1日1回洗浄剤に浸け歯ブラシ、コップ等も全て消毒している。歯ブラシにはカバーをつけコップ等も常に乾燥している状態にし清潔保持に努めている。利用者に合わせ歯ブラシ、スポンジ歯ブラシにしたりと工夫し、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり介護記録に排泄の有無と時間を記録し間隔が空いたりした時は声掛けをしている。日中はなるべくオムツを外してトイレでの排泄を支援している。	おむつをしている利用者も含め、日中は全員がトイレで排泄をしている。夜間はポータブルトイレや吸収力のあるパットを使ったり、トイレ誘導をし、それぞれの利用者に合った自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品飲料を工夫して提供している。また一人ひとりの排便の状況を把握して提供、便秘の利用者は医師の診断の元、下剤を処方して頂き調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ利用者の希望やタイミングはその都度相談し決めている。様々な入浴剤等を使用し、色や香りでも入浴を楽しんで頂けるように様に支援している。	毎日湯をはり、入浴ができる用意をしている。1対1で対応している。物盗られ症状のある利用者で、一人で鍵をかけて入浴する利用者もいるが、職員の協力で信頼関係が見られるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのタイミングで就寝時間、休息して頂いている。但し昼夜逆転しない様に気を付けている。傾眠が見られた場合、午前午後に関わらず休息して頂いている。また一人ひとりの希望に合った室温にし夜間は吸収の良いパットを使用し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の疾病に対して医師の診断の元、服薬を行っている。また薬剤師には残薬調整や必要に応じて指示を仰いでいる。利用者がきちんと服薬が行われているか飲む込みを確認している。また服薬が難しい利用者には工夫しながら服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお皿拭き食事の盛り付けなど、協力して頂いている。また行事やイベントの飾り付けなど一人ひとり得意な物を協力して頂き、達成感、満足感が得られる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため家族との面会もままならず、外出レク等も出来なかった。利用者の気分転換を少しでも支援しようと天気の良い日は近くを散歩したり、外に出て外気浴をしながらお茶を楽しんで頂いた。	事業所の周囲は人があまりいないので散歩をしたり、駐車場を周回後日よけテントの下でお茶を楽しみ、気分転換をしている。コロナ禍で外に出られないと心配する家族に、ブログで様子を伝える工夫をしている。	コロナ禍で外に出られない状況にあるが、外気に触れ季節や天候の変化を利用者が直に感じられる支援とその様子を家族に知らせる工夫をしてみたいかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事が難しいため、利用者の希望により数名のバック、お財布は事務所で預かっている。必要に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度も新型コロナウイルス感染防止のため遠方の家族は面会が出来なかった。利用者本人が家族と電話で話したり事業所としても近況報告の電話、手紙を送る支援を行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月ごとに季節の壁紙を職員と利用者で作成し事業所にいながらも季節を感じて頂ける様に支援している。共有リビングではプロペラ付き照明、プラズマクラスターが常に稼働していて空気の循環、室温が一定に保られている。	コロナ感染、生活臭対策としてジェットパーフェクター(除菌、消臭装置)をホール、風呂場、トイレに設置している。また、換気や室温調節を心がけ、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有リビングでは気の合う利用者同士、談笑したりテレビ見たり新聞読まれたり中庭を眺めながらお茶を飲まれたりと思い思い過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で慣れ親しんでいた寝具等を持ち込んで頂いている。また枕の位置や就寝時には室温の希望を伺い居心地よく過ごして頂けるように支援している。	居室には使い慣れた家具や寝具等を持ち込むことが自由であることを説明し、自分らしく馴染みある空間作りを支援している。換気の際は外に出て行くリスク回避に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には一人ひとり色分けしたラインが貼ってあり利用者はその色分けしたライン色を目印にしている。またトイレのドアノブにはお花を飾りトイレと認識している利用者もいる。		